

## 新型コロナウイルスの「3つの顔」

国の緊急事態宣言が5月末まで延長され、「外出自粛」等の「人との接触制限」を引き続き求められる中で、人々の命と暮らしを守るために、感染への不安を抱えながら、人との接触を避けられない職場環境の中で働く人たちがいる。医師、看護師、介護士、保育士、スーパーマーケットやドラッグストアの店員、公共交通機関の職員、配送・配達の業務に携わる人たちなどの「エッセンシャルワーカー」と言われる人たちだ。これらの人たちへの感謝と敬意を込めて拍手を決まった時間に職場から送る、建物をライトアップして感謝と応援の気持ちを示すといった取組が広がっている。その一方で、「医療従事者の子どもが保育園への登園を拒否された」といった偏見や差別が起こっていると報じられている。本当に心が痛む。何故、このような偏見や差別が生じてしまうのか。どのようにこの状況を克服していけばよいのか。

日本赤十字社が、新型コロナウイルスには「三つの感染症」があると指摘している。第一の感染症は「病氣」。第二の感染症は「不安と恐れ」。そして第三の感染症が「嫌悪・偏見・差別」。(「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!～負のスパイラルを断ち切るために～」2020年3月26日 日本赤十字社HPより)

ウイルスは眼には見えない。だから不安になる。不安になると、まずは特定の職業に従事する人などに「危険」というレッテルを貼り嫌悪する。そして、嫌悪の対象を差別して自分から遠ざけ、つかの間の安心感を得て「不安」を解消する。この偏見・差別が進むと人々は分断され、自分が差別される側にならないようにと感染を隠す。やがて、誰が感染しているか分からなくなり、第一の感染症である「病氣」が拡大する。まさに「負のスパイラル」に陥るといふ訳だ。言い換えれば、病氣は私たちの「身体」を侵し、不安や恐怖は「心」を蝕み、偏見・差別は「認識・判断」を狂わせ、その結果、ウイルス感染者を増やしてしまうという訳だ。

一体どうすればよいのか。嫌悪・偏見・差別を生み出す不安や恐れは「無知」や「誤解」から生じる。だから、正しい知識・情報を得ることが何より大切だ。ところが、世間には、特にネット上には、私たちの不安を煽るような直感的・短絡的な言葉があふれている。こうした根拠のない非科学的な発言に惑わされてはいけない。「病氣」には正しい手洗い・うがい・咳エチケットが必要であるように、「不安・恐れ」には正しい知識・情報が何より必要だ。正しい知識・情報を基に正しく認識・判断すれば、人を不幸に陥れる「偏見・差別」には至らない。

「3つの顔」を持つ新型コロナウイルス。皆さんは、第一の感染症だけでなく、第二、第三の感染症に侵されていないと断言できるだろうか。毎日の検温等の「健康チェック」に加え、正しい知識・情報を得ているかどうか、正しく認識・判断しているかどうか、そして、エッセンシャルワーカーの人たちを差別していないかどうか、「3つの顔」と向き合い、「自己チェック」をしてみしてほしい。

頑張れ徳風生!



校長 東則尚